

P o l j e

〔ポリエ〕とは、石灰岩地域で溶食作用によってできた広い凹地、平野のことです。
秋吉台エコ・ミュージアムは佐山ポリエと呼ばれる谷あいには建っています。

〒754-0302 山口県美祢市美東町赤
TEL・FAX:08396-2-2622
E-mail : akiyosiecomuseum@yahoo.co.jp
HP : <http://www.c-able.ne.jp/~mitou-14/>

秋吉台 シカに食べられたとしたら、それは困った問題

梅雨が明けてから連日の暑さ。秋吉台の草原も疲れ気味。それでも草は良好に育っています。良好な草が採れるから、広大な草原であり続けてきたともいえます。江戸時代を通じて草を必要としていたのは農家だけではありません。毛利の殿様をはじめ戦の時に馬に乗ることを義務付けられた家来、つまり武士も馬を飼うために必要だったはず。馬は生き物なので戦のない平和な時も餌は食べます。それも毎日…。そんな話はさておき、例年なら花盛りのキキョウが見当たりません。キキョウヶ原など多く見られるところでは青い花があちらこちらにチラホラ見えるはずなのに、わずか数輪しかありません。咲き遅れているだけならよいのですが、ちょっと心配です。シカに食べられたのだとしたら、それは困った問題。

(写真は天空のゴボウ畑)



季節の花 雨にも負けず 夏の暑さにも負けず

ヒオウギ 日当たりの良い草原に生えるアヤメ科の多年草。草丈が高く他の草よりもすくっと伸びて咲くので遠くからでも見つけられます。オレンジ色の花は、緑一色のこの時期の草原ではとりわけ目立ちます。群生している場所は急斜面なので近づけません。

ニガクサ 少し湿気のある草原に生えるシソ科の多年草。生育環境によって状態が大なり小なりの変化があるようです。大群落になることもありますが、ある年には消えてしまうこともありました。どれくらい苦いのだろうと葉を噛んでみましたが、思ったほどというか、苦みは感じられませんでした。

オオキツネノカミソリ 野原や林縁などに生えるヒガンバナ科の多年草。梅雨が明けて夏本番が始まる頃、花茎だけを伸ばしてオレンジ色の花を咲かせます。葉のないときに開花するのはヒガンバナに似ていますが、それに比べると株数はずっと少ないです。最近ではヒガンバナと同じくイノシシが球根を食べているそうです。



観察会「森の昆虫教室・クワガタムシ」 虫も暑さは苦手

「森の昆虫教室・クワガタムシ」編を行いました。朝から晴れて、今日も暑くなるだろうと予測。屋外では気温の推移に留意しながら昆虫観察をしました。子どもたちは小さなムシを見つけると「かわいい」と大騒ぎです。大人の目線とは違う子どもの思いがあるようです。後半はレクチャールームに戻って昆虫標本を見ながらお話を聞きました。その後、講師の角田先生からヒラタクワガタのオス・メスのペアがプレゼントされました。小さな容器から取り出したクワガタムシに感動のようすでした。



タカトウダイ 絶滅していなかった 8年ぶりの再会

タカトウダイが満開と聞いて駆け付けました。そこは春先に伐採されて、もう見ることはできないだろうと思っていた場所でした。ここで初めて見たのは8年ほど前で、この日見たのが2度目です。そして写真を撮ったのは、これが初めてです。秋吉台では少なく、観察しているのは今のところこの場所だけです。草原に生えるトウダイグサ科の多年草で、草丈が高く周りの草むらから立ち上がるように伸びています。花は派手でも目立つわけでもありませんが、個性的な花です。



ヤブカンゾウ ヤブカンゾウのようなのだけど・・・

3年前に分けていただいたレモン色の花のヤブカンゾウ。今年はきれいに咲きました。元の場所はどうだろうと訪れてみたところ、花は見当たりませんでした。付近の草が茶褐色になっていたので除草剤の影響を受けたのでしょうか。ですが、このオレンジ色の花がヤブカンゾウなのか分かりません。インターネットで検索しても見つかりません。AIに相談したら、最終的には「お答えできません」と言われました。結実はしないのでタネはできません。芽変わりで出現したのでしょうか。品種改良で誕生した園芸種でしょうか。なんだかモヤモヤしていますが、今後も要観察です。



9月の行事



9月26日(土) 「クロヤツシロランの散策」

どこかにあるはず、まぼろしの花「クロヤツシロラン」を探しに出かけませんか。